

子どもがつけた力を自覚できる学びを通して、自己肯定感を高める

1 学び力向上の方針

○子どもがつけた力を自覚できる学びを通して、自己肯定感を高める

- ・読み解く力の視点をふまえた授業を仕組み、学びを実感する手立てを講じることで、児童の自己肯定感を高める。

2 学び力向上の具体的な取組 … カリキュラム・マネジメント、校内研究の取組み充実、校内OJT組織の推進

学びを実感できる

授業づくり

- 児童が目的意識をもって取り組める「めあて」設定を工夫する。
- 学習の「ふり返し」活動を充実させ、学びの実感を生む。
- 効果的なICT機器の活用を探り、授業改善に取り組む。
- 「読み解く力」（教科学習、会話、遊び、読書など、様々な場面で発揮される力です。滋賀県が育成に力を入れています。）の視点をふまえた授業づくりに努める。

学ぶ意欲を引き出す

学習集団づくり

- 安心して学べる学習規律の定着を図る。
- 「話す・聞く」姿勢の育成を図り、特に発表の上手な子どもを育成する。
- 積極的に参加・発言したり、失敗を恐れず挑戦したりできるように、一人ひとりの学習活動を温かく受けとめ、支持的な学習集団をつくる。
- 学習のプロセスや結果を積極的に「認める・ほめる・励ます」ことを意識化・行動化する。

子どものために一丸となって

取り組む学校づくり

- 合言葉「どんどんチャレンジ！やればできる」「思いやりとありがとうの心で」を大切にしたい指導をおこなう。
- 教職員の指導力向上に努める。
 - 校内研究の取り組みから
 - 校内OJT（On the Job Training→実際の職務現場において業務を通して、上司や先輩から指導をおこなうこと）の組織化から
- 総合的な学習の時間を主体的・協働的で魅力的なものに見直しを図る。